



府職労に結集し、府民の健康を守る研究所に



吉田代議員 (健康福祉支部)

公衆衛生研究所(公衛研)は、2017年4月の独立行政法人への移行が計画されています。公衛研は行政や保健所と一体となつて、府民が健康被害に遭うことを防ぎ、被害を拡大させないために検査や調査を行っています。維新府政・市政により、大阪市立環境科学研究所と公衛研を統合し、独法化することが決定されましたが、当初の目的を変更させ、府民の健康を守るという現行の業務を機能強化することを目的とさせたことは、これまでの運動の成果です。現在は、独法後の労働条件確立に向けて取り組みを進めています。独法化後は新たな単組を組織することになります。これまでと同様に府職労に結集し、府民の健康を守る研究所として役割発揮できるようにがんばります。

維新府政のもと、教育・文化施策はひどい攻撃を受け、博物館や図書館の廃止方針も出されましたが、幅広い人たちの運動で存続を勝ち取りました。これからはより良い教育・文化行政を進めていきたいです。

技術力と経験の継承には時間と労力が必要



窪代議員 (土建支部)

人員削減と業務の過密化で、どの課も多忙な状態が続いています。技術力や現場での経験が必要となる業務なので、人を育てるには時間と労力が必要不可欠です。しかし、以前のように丁寧に仕事を教える時間と余裕がなく、新規採用職員には本当に申し訳なく思います。十分なコミュニケーションを取る時間もないまま、毎日遅くまで残業し、残念ながらメンタル疾患となり、退職する新規採用職員もいました。個人が力を出し切ってもマネジメントしても、人員が増えない限り解決しない問題です。昨年、執行委員となり、会議や集会などに参加し、組合活動が身近に感じるようになりまし。府職労講座では、社会の動きや労働組合の必要性など、新聞やテレビなどで報じられないことを知りました。引き続き、まわりの仲間にも呼びかけて一緒に参加したいです。

府職労への加入がありまし。組合員が増えるとうれしいし元気になります。職場の問題を取り上げ、ニュースや職場集会以共有し、具体的要求として申し入れるという「目に見える」組合活動をすすめていきたいです。

現業職員の正規職員化を



吉岡代議員 (現業評議会)

教育センターで電話交換手をしています。かつては現業職の仲間も多数いましたが、教育委員会の現業職員は私だけになりました。教育センターの電話交換業務も正規職員2人体制でしたが、退職後の補充がなく、非常勤配置となつてい。同一業務を行っているにもかかわらず、雇用条件が違つては、正規職員に比べて1人職場や雇用条件の違う職員が多数ありま。こうした問題も訴え、正規職員化を勝ち取りたいと思います。今年度は現業評議会として、全ての現業職場への訪問・対話を取り組む決意です。

非常勤職員の雇止めは許さない



下代議員 (健康福祉支部)

働き続けてきた非常勤職員を病院の都合で雇止めすることは、生活に重大な影響を与えるとともに、法的にも重大な問題があり、断じて許せません。支部は府職労・病院労組と連名で緊急要求書を提出することもに、府職労あげての早期宣伝や説明・懇談会などを実施し、希望者全員雇用を求める取り組みを進めてい。院長は、新病院の理念、めざすべき方向として「世界と日本を視座に優れた医療を発信しなければならぬ」「病気でなくても来なくなる病院をめざす」と言っています。府民のいのちと健康を守る病院をめざして、引き続きがんばります。

組合員を増やし、業務改善、働きやすい職場を



不死原代議員 (土木現場支部)

新名神建設事務所では、アクセス道路の供用開始に向けて急ピッチで作業が進められており、連日残業が続く、深刻な職場実態となっております。精神的に崩れ、休まざるを得ない職員もおり、自ら命を絶つ職員もいました。職員は必死に供用開始に向け、事業を進めています。また、水防問題では、ゲリラ豪雨が続き、水防が例年より多く発令される事態が続きました。そのため、タクシー代



意見を出し合い、小さい困りごとを相談しながらあきらめずに、みんなで力を合わせる分会活動をすすめていきたいです。

「数は力なり」をモットーにがんばる



原田代議員 (急性期・総合医療センター支部)

生体腎移植なども行う泌尿器科主体の病棟で働いていますが、以前は歯科口腔外科も入っており、神経内科と乳癌外科、血液内科も加わり、内科系・外科系合わせて4科という病棟になっています。以前に薬剤投与ミスによる医療事故もあり、いまだに職員は辛い思いを抱えて仕事をしています。病棟再編の話があるたびに病院当局と交渉し、人員増や夜勤体制の要求を訴えています。4月には7名の組合加入がありました。直接交渉することで「組合活動とはこういうものだ」という体験をしたことが組合加入の力となったと思います。これからも「数は力なり」をモットーに取り組みたいと思います。

地域での労組・団体との共同をを広げよう



藤本代議員 (中央地区評)

環境水研では、私たちの要求もあって、行政職の副主査格付け、主査昇格の制度が新設されました。公平な制度として運用させていく必要があります。独法化後4年が経過し、第2期中期計画期間に入っています。運営交付金は4000万円削減され、さらに来年度は集約効果で削減される予定です。そのため「金に」事業を追い、外部資

来賓

大阪自治労連 執行委員長 荒田 功さん	新日本婦人の会 大阪府本部 会長 杉本 和さん	府職労退職者会 会長 笹江 昭雄さん

大会役員のみなさんご苦勞さまでした

大会議長 貴瀬代議員 (健康福祉支部)	大会議長 奥野代議員 (府税支部)	大会運営委員長 菊本代議員 (急性期・総合医療センター支部)

公設試験研究機関としての役割 発揮をめざして



山本代議員 (環境水研労組)

府立図書館は、施設管理部門の指定管理がスタートし、府直営部分と市場化テラストによる委託部分と二者により運営されています。本来のサービスが損なわれないよう注視していく必要があります。運動の成果により3年連続で司書が採用されていますが、年度当初の欠員が常態化しています。欠員の解消はもちろん、専門的な技能の継承を見据えた計画的採用を求めています。

ハラスメントのない働きやすい職場を

増田代議員 (議員 教委支部)

府立技専校(高等職業技術専門校、職業能力開発校)は府下に7校あり、職業能力開発促進法に基づき、離職者の就職支援、企業における人材育成、障害者の職業訓練などを目的としています。1校で指定管理者制度が導入される3年経過しましたが、思ったような成果を上げることができず、民間活用のあり方、再編整備を検討、障害者訓練の充実、離職者の早期就職



中川代議員 (商工労働支部)